



『人は機械に負けない。“愛”というテクノロジーがあるから。』

## PIPED BITS

株式会社パイプドビット  
東京都港区元赤坂一丁目1番7号  
<http://www.pi-pe.co.jp/>



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。  
九州大学工学部建築学科卒業。  
2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士（人間環境学）。  
翌月起業。㈱パイプドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など1900余りの事業者に情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

## メールの功罪とCSR（企業の社会的責任）

四国の田舎に住む76歳の親父がパソコンを触り始めて7年程になる。デジカメで撮った写真を観賞し、キーボードに指を走らせて書いた手紙を印刷しながら、便利な時代になったものだとつぶやいていた。もし親父がツイッターの使い手だったとしたら、ツイートしていたら。冷たい息子と思われたくない私は、「いい写真だね。お母さんも元気そうで何より。RT@親父」。こんな感じでツイートしていたかもしれない。

その親父が昨年からメールを始めた。

私の誕生日に親父からお祝いのメールが届いた。メールの作法に慣れていないのか、件名は無い。「七十歳前から始めたPC、三十歳過ぎて始めたゴルフ、まあどほどに」と結んであった。互いの趣味の話である。遠く離れた場所に住む親父から届いた何気無い一言は、仕事で疲れた私の心を温めた。

メールは便利である。書きたい時に書け、読みたい時に読める。紙は不要。ポストまで足を運ぶ必要はなく、コストを気にすることも無い。

しかし何故だろう。

どこかにメールを始めた親を心配する自分がある。迷惑メールに悩まされていないだろうか。

悪質な第三者から親宛に不当な請求書が届いていたらどうか。ITを支える人間として、決して許せない気持ちを抱くだろう。

そう言えば、5年程前に迷惑メールを研究したことがある。如何にして読まれようかと工夫された迷惑メールの数々。例えば、知らないアドレスから届く「メールアドレス変わりました」という迷惑メール。読まずにいられる人はいないだろう。いかにも卑劣である。

国内で1日に40億通のメールが流通し、迷惑メールはその7割ないしは8割を占めるとも言われる。

昨年10月、日経新聞で紹介されていた関西大学鶴飼教授の研究成果によると、迷惑メールによる経済損失は、10年後にGDPの1%（約5兆円）に達する可能性があるそうだ。

我々が日々強いられる迷惑メールを削除する作業が労働生産性の低下に及ぼす影響は甚大である。その一方で、今やメールは業務上の連絡や取引に多用され、我々の業務の生産性の向上に大きく貢献している事実を疑う余地はない。

メールの普及は我々の生活を大きく変えた。

仕事の生産性が飛躍的に向上する一方で、迷惑メールを削除する手間が増えた。親や友人とのコミュニケーションが便利になる一方で、メールからの不当な請求に財産を失った親がいる。メールをチェックしながら道路を歩き、交通事故に遭った子どもがいる。変革はいつも功と罪を生む。メールの普及によって利益を得る我々は、メールの普及によって生じる損失の削減に貢献しなければならない。